

こんな本を読んできました



タイトル 店長がバカすぎて

著者 早見和真

出版社 角川春樹事務所 2019年

「こんな書店やめてやる」と主人公の契約社員、谷原京子は常に辞表を出す気持ちで働いています。

長く無意味な朝礼や空気を読まない言動に呆れ果て、店長がバカすぎてストレスがたまっていく毎日。それに加えて、彼女の周りで次々とトラブルが起こります。でも先輩や同僚、お客さん、作家たちに助けられながら、怒ったり、笑ったり、泣いたりして奮闘する彼女の姿はとても生き生きと描かれていました。

「とにかく本が好きだから、本好きの仲間たちと書店という場所で働いている」という文章にハッとしました。図書館で働く私も同じ思いです。日々の忙しさを忘れてしまうこともありますが、どんな仕事でもこういう気持ちを持ち続けていきたいですね。

最後は、「えー！」「えー！！」「えー！！！」たみかけるような思いもよらない結末が待っています。

呉市の歴史とかかわりのある作家や事柄の所蔵資料を紹介します。

郷土資料



タイトル 迷路探偵ピエール
摩天楼の秘宝をまもれ！
著者 カミガキヒロフミ／作
IC4DESIGN／作
丸山ちひろ／文
出版 永岡書店 2017年

著者のカミガキヒロフミさんは、呉市出身です。文：丸山ちひろさんも呉市出身です。

舞台は高層タワー。迷路探偵ピエールが、“秘宝・メイズキューブ”をねらう怪盗Xを追いかけて、迷路のように入り組んだ街やタワーの中を走りまわります。この絵本には、登場人物と一緒に物語の世界に入り込む楽しさがあり、また、カラフルで緻密なイラストの中に、迷路や絵さがしの問題がたくさんちりばめられています。

私が好きなのは遊園地のシーン。スミズミまで書きこまれた絵を見てその場面のドラマを想像してみるのがおすすめです。にぎやかな物音や素敵な音楽が聞こえてくるようです。みなさんも、この本の中で自分だけの楽しみを見つけてみてください。